

「発達科学ハンドブック」第1期完結！(A5判上製)

◆最新刊！

第1巻 発達心理学と隣接領域の理論 方法論

約400頁／予価4200円

いまや発達心理学は、隣接の学問分野から影響を受けつつその領域を広げ、総合的な「発達科学」として発展しつつある。発達心理学の歴史の変遷、理論的基盤と方法論の潮流をたどり、進化心理学・文化人類学・社会学などさまざまな隣接領域の特徴と、発達心理学にもたらした影響を概括・展望する。 田島信元・南 徹弘 責任編集

第2巻 研究法と尺度

344頁／3780円

実験、観察、質問紙、量的研究、統計法といった多彩な手法の基本と実例を詳述し、さらに研究領域別にも研究法にアプローチする。英文執筆等の資料編も充実した研究ガイド。 岩立志津夫・西野泰広 責任編集

第3巻 時間と人間

336頁／3780円

心の発達にともなう時間認識や過去・未来の見え方も変化する。物理的時間と心理的時間の違い、生体リズムのもたらす影響など、さまざまな「時間」を切り口に発達の原理に迫る。 子安増生・白井利明 責任編集

第4巻 発達の基盤：身体、認知、情動

336頁／3780円

「生物としてのヒト」の発達の基盤とは？、心と身体の重要な接点である脳科学・認知・情動の先端的知見を紹介しつつ、個体の生から死までの変化過程を考察する人間科学的発達論。 根ヶ山光一・仲真紀子 責任編集

第5巻 社会・文化に生きる人間

360頁／3990円

発達が起こる場としての「社会・文化」と、それ自身が発達するものとしての「社会・文化」。大きいこの二つの視点から、社会と文化の中に生きる人間の発達のかたちを描き出す。 氏家達夫・遠藤利彦 責任編集

第6巻 発達と支援

376頁／3990円

現場のニーズに応えるには、教育・臨床心理学、発達臨床・障害科学、保育・教育学など学際的な知識が欠かせない。研究と実践の相互関係を視野に入れた発達支援のあり方を論じる。 無藤 隆・長崎 勤 責任編集

第7巻 災害・危機と人間

約300頁

自然災害・汚染物質戦争・虐待といった危機的状況は、個人・家族・社会・文化にどのような影響を与えるか。震災の個別の事例も紹介、発達の視点から災害・危機の諸相にアプローチする。 矢守克也・前川あさ美 責任編集

◆好評既刊！

根ヶ山光一 著

アロマザリングの島の子どもたち

多良間島子別れフィールドノート

「アロマザリング」は、豊かさである。アロマザリング（母親以外による子育て）の原点が息づく沖縄の離島から、個人化し、孤立化する都会の子育てへのメッセージ！ 四六判上製208頁／2310円

菅野幸恵 著

あたりまえの親子関係に気づくエピソード 65

母親が「子どもをイヤになる」瞬間とは？、親子も人間関係、楽しいだけでなく軋轢、葛藤も経験しながら豊かな関係が育つていく。育児に新しい視界を開く本！ 四六判並製192頁／1995円

岡堂哲雄 監修／志賀合明 編

看護・介護・保育の心理学シリーズ①

人間理解の心理学

幼児から高齢者までの各世代の物語を軸に、それぞれの心の特徴や、少子・晩婚化、若者の過剰な自己規定、地域社会の崩壊など、現代社会の問題を考える。 A5判並製208頁／2205円

C・ダンエル・バトソン 著／菊池章夫・二宮克美 共訳

利他性の人間学

実験社会心理学からの回答

人間は利己心なく他人に関心をもち、他人を助けることができるのか―徹底して実証的にこの問題に挑んできた実験社会心理学者の、巧みな実験による検証。 A5判上製440頁／4830円

荻阪直行 編

社会脳シリーズ2 道徳の神経哲学

神経倫理からみた社会意識の形成

人に自由意思はあるのか？ 感情と道徳的判断との関係は？ 脳研究の進化がもたらした、従来の人間観を脅かしかねない新しい哲学的・人間学の問題への挑戦。 四六判上製274頁／2940円